

武蔵野大学のフィールド・スタディーズ —この5年間をジャンプ台として—

武蔵野大学

発表者 山田 均

1 はじめに

武蔵野大学は約100年の歴史を持つ浄土真宗本願寺派の宗門校で、11学部19学科よりなる総合大学です。学生数は約1万人で、東京都江東区有明に本部を置く中規模の大学です。本学のフィールド・スタディーズの大きな特徴は、第一に全学的な必修科目であり、卒業要件であるということ、第二にフィールド・スタディーズが本学の建学の理念に大きくかかわっていることです。本日はこの2点と、今後この5年間の経験をジャンプ台としてどのような科目としていくのかについてお話をしようと思います。

2 必修科目にすることと建学の理念

1年生は基本的に全学部全学科でフィールド・スタディーズを必修科目にしています。これはこの先どのような学問体系を学んで、どのような能力を身につけた人材になろうとも、本学の学生としての世界観を身につけてもらい、それを土台として人生を構築していってほしいという願いを表しているものです。その土台としての世界観とは何かというと、この世界がたくさんの人の結びつき、支えあいによって存続しているという「ご縁」の世界だということ、その中で私たち自身の存在がたくさんの他者からの「ご恩」を受けてここにあること、そして私たちはそうした他者のご恩に対して「報いる」という気持ちを持たねばならないことです。これは本学の建学理念である仏教精神に直結するものです。これが大学での学問の基礎工事であり、なぜ学ぶのかという問いに対して明確に答える重要性をもっているという信念が、本学が毎年2000人を越える学生に100近くのパログラムを提供するという大きなコストをはらっている理由だということをお伝えしたいと思います。

3 5年間をジャンプ台にして

5年間をジャンプ台にしてと申しましたが、本学のフィールド・スタディーズは2011年の東日本大震災に際してのボランティア活動を源流としておりますから、今年で10年目ということになります。幸いにして学内学外の多くの方々のご尽力をいただくことができ、参加者数やプログラム数など数字は順調に発展してくることができました。これからはこれまでの歴史を単に繰り返していくのではなく、ジャンプ台にしてより高く跳んでいかねばならないと考えています。「ご縁」の世界はグローバル化の中で世界の隅々まで広がっています。日常生活の中の小さなモノにも遠くの人の手がかかっています。そのことに気づき、遠く離れて暮らす人の幸せに思い至れるような人材を養成できるような、気づきのプログラムを実施していくこと。また、受け入れ先の役所や機関などにお世話になるだけではなく、お役に立てるようなプログラムを作っていくこと。また、学外学修の学びで得たことを文章や口頭発表、映像など様々な形で表現していくことができるのも大切なことだと考えております。プログラムの充実、学外の方々との互恵的な連携、学びを表現する技術の養成をどれ一つとしておざなりにすることなく目指していくことが今後の課題であろうと考えております。